

(報道資料)

2014年11月25日

株式会社パスコ
一般財団法人リモート・センシング技術センター

陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)データ等の配布開始について

一般財団法人リモート・センシング技術センター（以下：RESTEC）と株式会社パスコ（以下：パスコ）は、陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2) データおよび陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS/PRISM) データ※1（以下：ALOS-2 データ等）について2014年11月25日より共同で配布を開始します。

今回提供を開始する ALOS-2 データ等は、自然災害の迅速かつ詳しい状況把握に加え、地盤沈下の状況把握、海氷監視や資源探査など、さまざまな用途に活用することが出来るのが特長です。本事業は、両者が独立行政法人宇宙航空研究開発機構（以下：JAXA）から受託した ALOS-2 の運用および観測データの一般配布を行う事業の一環で実施するものであり、ALOS-2 データ等の利用拡大に取り組んでいきます。

※注1 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)：2006年1月から2011年5月まで運用された日本の地球観測衛星で、高精細な全世界観測を実施し、地図作成・更新、災害状況把握、地域環境観測等に貢献しました。本事業において ALOS に搭載された3つのセンサのうち、パナソニックパナソニック立体視センサ (PRISM) のデータを販売します。

■背景

本事業は、ALOS-2 の運用および ALOS-2 データ等の一般配布に係る事業を共同企業体として RESTEC およびパスコが JAXA から受託したものであり、RESTEC は、代表機関として全体のとりまとめおよび ALOS-2 のミッション運用を担当し、株式会社宇宙技術開発が衛星管制を担当します。また、パスコはデータ販売事業者として ALOS-2 データ等の配布を RESTEC と共同して担当します。

■ALOS-2 データの特長

<高解像度の観測>

ALOS-2 (PALSAR-2) は、スポットライトモードで1m×3mの分解能を有しており、ALOS (PALSAR) と比べてより高解像度な観測をすることができます。また、SAR (合成開口レーダー) であるため、昼夜天候によらず、観測することができます。これにより、世界で頻発する洪水や火山等の自然災害の被害状況等を詳しく把握することができます。

【図】ALOS (PALSAR) と ALOS-2 (PALSAR-2) の観測画像の比較

<広領域の観測および観測頻度の向上>

ALOS-2は、衛星の姿勢を傾けることにより、左右観測を可能とし、ALOSと比べ、観測可能領域が3倍である2,320kmになり、回帰日数が14日と大幅に短くなったこと等により、迅速な観測が可能になりました。

■ALOS-2のデータ配布方法について

パスコ、RESTECおよび両社の国内外の代理店を通じ、ALOS-2データ等の配布を行います。

<https://satpf.jp/>

【図】ALOS (PALSAR)とALOS-2 (PALSAR-2)の観測画像の比較



■お問い合わせ先

◇報道関係のお問い合わせ先

株式会社パスコ
広報部
Tel:03-3715-1048

一般財団法人リモート・センシング技術センター
広報室
Tel:03-6435-6710

◇製品・サービスに関するお問い合わせ先

株式会社パスコ
衛星事業部営業部
Tel:03-5318-1090

一般財団法人リモート・センシング技術センター
ソリューション事業部マーケティング課
Tel:03-6435-6791、6774